

**あしあと**  
利用者ものがたり。  
島袋春子さん編



寺小屋の入学証を手にテレ笑い。



模範学生！

# 空襲を生きのびたからこそ 得られた、しあわせな人生

島袋春子さんのあしあと《前編》

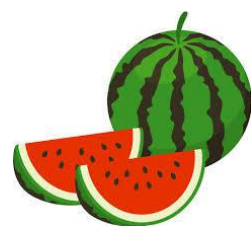
どれほど疲れていても、この人の笑顔を見るとなんだかほっこりいい気分。いつも誰に対しても感謝の気持ちをわすれず、いつも笑顔。その人は一日に何度もいいます。「ありがとうございます」「おねがいします」

今回のあしあとのコーナーは、『おとなの寺小屋 うむいぬうふやー』の新入生 島袋春子さんです。春子さんは私たちスタッフに対してもいつもいねいな言葉で話してくれます。寺小屋の国語の授業ではじっくり考えよく発言してくれます。体育の授業では小さな体を精いっぱい動かしてがんばっています。音楽の授業では目を細めて楽譜をおっています。そして元気に歌っています。春子さんのすごいところは、なんととっても記憶力。スタッフや利用者さんの名前を一回でおぼえちゃうんです。日頃、自分から話すことは少ない春子さんですが、毎日顔を合わせる利用者さんの姿が見えないと「レイ子さんは休みですか？」とっさに名前が出てくるってすごいですよね。私なんて半日たっても思い出せないこともあるのに(笑) いつも笑顔で礼儀正しい島袋春子さん。いったいどんなあしあとをつけてきたのでしょうか。さあ、春子さん物語、はじまりはじまり。

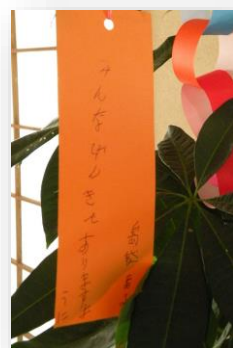
春子さんは大正11年四女一男の次女として北谷町平安山に生まれました。ワラビナーは「カマルー」。平安山？どこだろう？と思い調べてみました。平安山は北谷間切平安山村。昭和26年、上勢頭、下勢頭、伊平に分離し、現在は平安山という地名はなくなったとのこと。当時の北谷は今となっては想像できないほど、一面畑だったのでしょ。カマルー少女の母は畑でイモや豆、野菜をつくり家計をたすけました。父はサトウキビを収穫し、嘉手納の製糖工場まで運んでいたそうです。カマルー少女もウーヅトーシーの手伝いをしながら平和に暮らしていました。しかし、そんな北谷での幸せな生活は長くは続きませんでした。戦時中、家族で避難していた防空壕に爆弾がおちたのです。

次号へつづく

うむい合同会社  
うむいぬ むーとうやー  
沖縄市越來 1-14-6  
うむいぬ うふやー  
沖縄市桃原 2-16-37



学生時代にかえって…



春子さんの願いはみんなの健康。

## 寺小屋 授業参観

6月22日は、おとなの寺小屋うむいぬうふやーの参観日でした。国語と音楽の授業を「父兄」のみなさんにみていただきました。

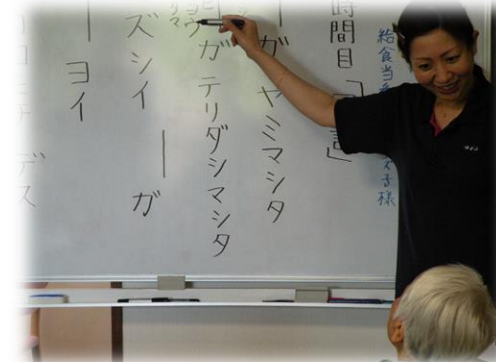
「初めての授業参観でドキドキしました」(先生)  
「もっとたくさんの父兄にみてほしかったなあ…」(生徒)



先生が分からないことは利用者さんがおしえてくれます。



シズ子さん給食当番や日直もがんばっています。



2時間目国語の授業は美香先生。



みんな発表したくてウズウズ。



4時間目音楽の授業では盛二郎さんが先生に！



うふやーの利用者さんはみなさん勉強熱心。

## うむいの勉強会 稲穂の会

## みんなで学べば怖くない！

先月の稲穂の会は、沖縄市消防本部より出講していただき救命講習を学びました。心肺蘇生法やAEDの使いかたなど、実際の緊急事態を想定し、対応方法をスタッフ全員で体験しました。沖縄市消防本部の大城様、宮里様ご指導ありがとうございました。お二人の分かりやすい指導のおかげで無事に終了証を手にすることができました。偶数月に開催する稲穂の会8月は、NPO きづきの翁長久仁子さんをお迎えし「介護美容」について学びます。ただ外見だけを磨くのではなく、利用者さんの手に優しく触れながらキレイにしていくことで、免疫力を高め、利用者さんのQOL(生活の質)向上を目指すというケアの方法です。介護の現場だけでなく、家庭でも活用できそうな今回の研修、お申込みはお早めに。



結構ハードでした。



もしもの時をイメージして。



お申込みは、お電話か別紙申込用紙からどうぞ。

とき：平成29年8月16日(水) 18時~20時  
場所：うむいぬうふやー(沖縄市桃原 2-16-37)  
※ 通常の稲穂の会は受講無料ですが今回の研修は化粧品などの材料費がかかるため、お一人様600円ご負担お願いいたします。